

## 閉上地区まちづくり協議会 公園緑地部会(2) 議事録

日時	平成27年10月25日(日) 10:00~12:10
場所	名取市復興区画整理課会議室(仙台法務局名取出張所3階)
テーマ	第2回中央公園計画づくりワークショップ
出席者	(代表世話役)針生勉、(副代表世話役)阿部ひで、(世話役)宇佐美久夫、(事務局長)南部比呂志、(公園緑地部会長)大宮理香、高橋新一、南部由希、渡部牧、(事務局)コンサルタント4名
オブザーバー	職員9名
コーディネーター	神戸まちづくり研究所 辻信一、東末真紀
資料	資料-1 第1回公園緑地部会議事録 資料-2 第1回新閉上公民館ワークショップ参加報告 資料-3 閉上まち協ニュースレター第16号

### ○ 第2回中央公園計画づくりワークショップ概要

#### 1. 前回の振り返り及び情報提供 (コーディネーター辻氏)

- ・前回の公園緑地部会の内容について、議事録等により説明。
- ・10月3日に行われた第1回新閉上公民館ワークショップについて、参加報告書により説明。また、名取市生涯学習課新閉上公民館担当の方より、概要を説明していただいた。

#### 2. 中央公園でするコト、したいコト(ワークショップ)

- ・AとBの2つのグループに別れ、アンケート及びワークショップを行った。

##### <シール貼りアンケート>

- ・貼り出した2つの事項について、参加者各々がイメージする項目に、グループAの方は赤色、グループBの方は青色のシールを貼り付けていただいた。

##### <グループ別ワークショップ>

- ・アンケートで出された意見を基に、これだけはやっていきたいということを各グループで意見を集約し考えをまとめていただいた。

#### 3. その他

##### <次回部会>

- ・次回公園緑地部会は、11月8日(日)13時とする。

### ○グループ別ワークショップの詳細

- ・AとBの2つのグループに別れ、アンケート及びワークショップを行った。

(Aグループ) テーブルコーディネーター1名、参加者8名

(Bグループ) テーブルコーディネーター1名、参加者9名

##### <シール貼りアンケート> (コーディネーター辻氏)

- ・貼り出した2つの事項について、参加者各々がイメージする項目に、グループAの方は赤色、グループBの方は青色のシールを貼り付けていただいた。結果は次のとおり。

アンケート1： 閑上の中心となる場所

⑥	⑤	④	③	②	①
その他	地域のシンボルとして「閑上らしさを感じられる場所」	多世代が集い活用できる「笑顔あふれる場所」	地域のコミュニティを育む「親しみのある場所」	地域の防災に寄与する「安全な場所」	住民や来訪者が集う「楽しい場所」
	● 赤 1	—	●●●●●● 赤 5	● 赤 1	● 赤 1
	—	●●●● 青 3	●●●●●●●● 青 6	—	—

アンケート2： 閑上中央公園でこんなことをしたい！

⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
その他	災害時の拠点	高校生の遊び場（たまり場）	小中学生の遊び場	幼児の遊び場	憩いの場	子育ての場	芋煮会など（炊き出し訓練）	季節のお祭り	地区民運動会	ソフトボール・サッカーの練習	グレートボール・ゴルフ
	●● 赤 2	—	●● 赤 2	—	—	●● 赤 2	●●●● 赤 3	●●●● 赤 3	●●●●●● 赤 4	●● 赤 2	● 赤 1
	●●●● 青 3	● 青 1	●●●● 青 3	—	●● 青 2	●●●● 青 3	●●●●●●●● 青 5	●● 青 2	●●●●●●●● 青 5	—	●●●● 青 3

- ・出された意見については、少数意見も含め、計画にどう反映させるのか考える必要がある。

(アンケート1の意見について主な考え)

<② 安全な場所>

- ・地域のコミュニティと、どちらにするか迷ったが、安全第一を考えた。

<③ 親しみのある場所>

- ・外に出た人も含めたコミュニティを考えたほうが良いのではないかな。ここに来れば誰かに合えるような場所であってほしい。

<⑤ 閑上らしさを感じられる場所>

- ・閑上の伝統を感じられるものなど、地域に特色をつけることにより、戻ってくる人もいるのではないかな。

- ・アンケート1-④の多世代が集い活用できる笑顔あふれる場所に、青が3つ貼られている。これは行政側の視点で、税金で造られるものだから誰でも公平に使えるようにとの考えだと思う。

こういうことも理解した上で、考えていかなければならない。

(アンケート2の意見について主な考え)

<② ソフトボール・サッカーの練習>

- ・以前は、スポーツができる広場を備えていた場所は、閑上小学校、中学校、公民館の3箇所あったが、今後は小中学校が一貫校として一つにまとまるため、場所が減ってしまうと思われる。そうすると今まで以上にグラウンドが不足してしまい、やれるスポーツも制限されてしまう。子育て世代は、子供にサッカーなどのスポーツをやらせるために、学校や住むところを選ぶことが多い。このような状況になってしまうと、閑上に来る子育て世代が少なくなってしまうので、グラウンドの整備は重要である。

<⑩ 高校生の遊び場(たまり場)>

- ・中学校を卒業すると高校へ進学等をし、バラバラになってしまうが、昔の仲間と集まれる場所があると良いのではないか。
- ・若い人達が見えない所でたまっているよりも、見える所にたまっていたほうが安心だと思ふ。

<⑦ 憩いの場>

- ・同世代、多世代のたまり場として、特に目的は考えずに、散歩の途中にプラッと寄れるようなイメージである。
- ・アンケート2-⑤の芋煮会などでは、火を焚くと思うが、都市公園では直火は禁止されている。また、コンロ等の使用も許可が必要と思われる。使用に当たっては、ローカルルールを決め、災害用のカマドベンチを使用した炊き出し訓練という名目で使用することが考えられる。訓練を行うことにより、いざという時に、カマドベンチがスムーズに使用できるようになることも利点である。神戸では、公園の木の伸びた枝を切り、焚き付けに使い、参加者からお金を集めている事例もある。色々工夫し、行政と調整することが必要である。

<グループ別ワークショップ>

- ・アンケートで出された意見を基に、これだけはやっていきたいということを各グループで意見を集約し考えをまとめていただいた。

<グループ別発表>

(Aグループの主な内容)

- ・考えは次の事項のとおり。
  - ①高校生のたまり場としたい。
    - ・たまるのであればオープンな場所でたまっしてほしい。また、以前の仲間との交流の場としてほしい。
  - ②以前の公民館のように、婦人の家、児童館、広場などの機能が備えられた場所としたい。
    - ・厨房はイベント等に活用し、閑上太鼓の活動場所としたい。
  - ③スポーツができる広場としたい。
    - ・走っても転ぶことがない、安全が確保された広場としたい。
    - ・スポーツ振興に特化した地域にしたい。
    - ・東側にスポーツ施設の構想があるので、調整が必要。
  - ④イベント広場は、すり鉢状にし、そのへりで観客が観れるようにしたい。
  - ⑤大人のたまり場としたい。
  - ⑥道の駅のように、24時間利用できるトイレがほしい。
  - ⑦子供、ジュニアリーダー、大人、年寄りが共存する公園で、大人達が子供たちにルールを教える仕組みにしたい。

## (Bグループの主な内容)

・考えは次の事項のとおり。

①芋煮会ができる場所にしたい。

・使い方を考える必要があるが、いつでもやれると魅力がある。

・直火については、周辺に住宅があるので配慮が必要。

②子供のボール遊びや、グランドゴルフなどができる場所にしたい。

③遊具については、広場とするなら不要だが、公民館に訪れた幼児などが遊べるようにするなら必要である。

④トイレは、隣接する公民館内に造り利用できるようにしたい。

・公園内のトイレは悪戯や破損が多いので、管理等の観点から公民館内のほうが適当と考えられる。

⑤外からの人は来るまで訪れることが考えられるので、交通や駐車場の配慮が必要。

⑥全体的には、大きな広場をイメージする。

### <総評> (コーディネーター辻氏)

・公園は、色々な世代のたまり場になり、コミュニティーの核となる。みんなの意見を上手に形にすることが重要である。日常的、非日常的な使い方がある。芋煮会は一々許可を取るのではなく、自由に使えたほうが良いのではないか。公園は自由な使い方をしてもらったほうが良いのではないか。隣接する公民館とは関わりがある。特にトイレだが、使い方や管理等について考える必要がある。

・広場を主とした中央公園とする場合、遊具については、周辺にある街区公園に設置することが考えられる。色々な考え方がある。

・ボール遊びや、サッカーなどをするのであれば、公園外へのボールの飛び出しや、子供の飛び出しを防止するため、フェンスを設置することが考えられる。今回は、このようなことを考えていただく。

以上